

渋川市、安全・安心の日の制定について

入内島 英明 議員

質問 県は毎月16日を「防犯の日」として、県民に防犯に対する意識付けをしている。渋川市も「安全で安心なまちづくりの条例」の中に「安全・安心の日」を制定できないか。また、民間パトロール隊を結成し、青パト等運行させ自主防犯活動できないか。

回答 現在各自治会等が実施している防犯パトロールを継続してほしい。今後、青色回転灯が導入される予定なので活用を考えたい。防災しぶかわ放送の活用について

質問 旧渋川市内の各地区自治会では、小学生低学年の児童の帰宅時に、子供たちを守るために、ボランティア活動でパトロールを実施しています。児童の帰宅時に、地域住民への協力と防犯対策効果が期待できる「防災しぶかわ」放送の活用はできないか。

回答 騒音苦情もあり、防災無線によらなければならぬものに限定してあります。防災無線を利用するのは難しいと考えます。市道沿いの除草奉仕活動等支援事業について

質問 各地域で、各団体等が目的に添った、住民ボランティア活動による除草奉仕活動が展開されています。年2回の道路愛護活動を長年実施していますが、市道沿いはすぐに草茫茫となり、通学路を狭くして、景観的にも良くない。ボランティアによる奉仕活動を、新事業として展開できないか。



標識が新しくなった子ども安全協力の家

住民の心が勧める 新市の姿を求めて

楯 信一 議員



改良が待たれる急カーブ

学校裁量費の予算化を

質問 学力向上の基盤となるものは、日常の授業の体質改善を図ることにある。量的な増加（授業時数を増やす）では、「知識」は高まるが、質的な変化（思考が深まる）とは言えない。授業の中核的な内容を扱うときには、実物教育を導

入して「感性から理性へ」の認識形成を図りたい。そのためには、学校裁量費の予算化が必要と思つた。回答 教材や教具の材料費等が急に必要になった時、すぐ使える予算が学校にあれば便利です。しかし、予算はあくまでも「計画」あつてのものだ

質問 市の中心部と北橋町を結ぶ渋川大胡線の鬼ヶ島付近の道路幅や、安全施設に関する要望が強い。市の計画と市の対応は。回答 道路の拡幅・カーブミラーの設置・樹木のこさ切り等の要望がある場合は、

市としても県へ積極的に働きかけたいと考えます。地下汚染の対応は

質問 北橋の坂東工業団地・その周辺の土壌と地下水が発癌性物質のテトラクロロエチレン（無色の液体）に汚染されている。市の考えや対応策は。回答 県と合同調査の結果周辺に飲料用井戸がなく、県は健康被害はないと判断しています。今後も県と連携して監視を継続し、周辺住民の健康保持に努めます。



捕獲されたイノシシ

やすらぎとふれあいに満ちた

ほっと なまち

山崎 雄平 議員

質問 本予算の成立、この時編成の基礎となった言葉に、人にやさしく便利で快適なまちづくり、快適でやすらぎのあるまちづくりなどがある。商店街が消えて、遠く郊外まで生活のために、食料品を買いに行かなければならない渋川には、この言葉は当てはまらない。

質問 本予算の成立、この時編成の基礎となった言葉に、人にやさしく便利で快適なまちづくり、快適でやすらぎのあるまちづくりなどがある。商店街が消えて、遠く郊外まで生活のために、食料品を買いに行かなければならない渋川には、この言葉は当てはまらない。

農林業の不振による 荒廃地の拡大について

齊藤 茂夫 議員

質問 農林政策の転換や農産物の輸入自由化による価格の暴落などで転業が相次ぎ、さらに高齢化により耕作放棄地が増加の一途である。荒れ地に異常発生している有害鳥獣被害防除のため、かかしや電気柵設置などで苦心しているが万全でなく守れないのが現状。

市は、どう考えているのか。回答 農地や山林などを荒廃化から守るためには、地域住民の合意形成による協同活動等集落機能の維持向上を図り、農地、山林等地域資源の保全管理が必要と考えますが、地域住民だけでなく、市民やNPO等の参画を得ながら取組みたい。

質問 耕作放棄地の中には所有者不在や不明者もいる。防犯・防火安全を脅かす深刻な社会問題であり、このままでは広がるばかりである。有効な手段を求めます。回答 農家基本台帳の電算化等により不在地主の迅速な把握と対策に取組みます。質問 市道の手入れを春秋の道路愛護の日に地区総出で行っているが、視界の障害、日照不良や凍結を防止するため、市道に出た木の枝切りが困難な作業となつ

ている。自治体が大きくない広く利用も図れる高所作業車を購入し、住民奉仕で行えば公費軽減につながると思うが、備えられないか。回答 業者委託を含め、経済性や財源等から総合的に研究していきます。質問 交通機関に不便な老人の自立生活支援として、電動四輪車購入やリースの賃貸料に助成はできないか。回答 電動四輪車の購入等の助成制度はありませんが、今後の研究課題と考えます。



小野上地区の住宅分譲地